

有宵会だより

第49号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

謹賀新年

壬辰六白金星



新春のご挨拶

辰年の由緒など

福田 有宵

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本会の会員、誌友の方々に始め、ご支援をいただいております同人の皆様には、この一年をお健やかに過ごして下さいますよう祈念申し上げます。
平成二十四年は、壬辰六白金星の年で、十二支では辰年になります。

辰についての語源を調べてみますと、大言海は「タツは起(タツ)の義で雲に乗って天にタチ上るもの」という意味があります。日本では万葉集巻の十六に鮫竜をミズチと読んでいて、日本書紀には野槌(ノツチ)、古事記に足名椎(アシナツチ)とあり、これらのツチは「タツ(竜)で竜神、雷神の意味があります。しかし辰を竜とするが竜は想像上の動物で、実

在しないので竜の語源もはっきりしないものです。蛇に似たところから混同される場合が多い。

ここで竜の容姿についてみますと、他の動物の九つに似ているところから、竜に九似あり。

竜の角は鹿、頭は駱駝(ラクダ)、目は鬼、項(ウナジ)は蛇、腹は蜃(ミツチ)、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似ているので九似です。そして決め手は逆鱗ゲキリン)

で、喉のととろに一枚だけ鱗が逆に生えていて、これに触れるものがあれば、竜はたちまちに激しく怒りとり殺すといわれる逆鱗で恐いものです。ここまでは御存じの方が多いでしょうが、少々珍しいものでは竜にオスとメスがあり、オスは竜といいい、メスは螭(チ・ミツチ)という名です。二つ目に面白いのが、「タツに巻いてミにこぼす」の文句です。竜が辰

の日に水を巻き上げて、巳の日に雨を降らすという意味なのです。本当にそうなのかと気にして下さい。

竜と龍の文字については竜が本字ですが、龍の文字は「立」と「」の合字で、はその肉が飛び跳ねている形なのです。説文に春分にして天に昇り、秋分にして淵に沈む。など。

「管子」の中に龍は五色を身に付け遊んでいて、小さくなるうとすれば、蚕蠶(かいこ)の如く、大きくなるうとすれば天地を入れる。また上がるうとすれば雲をも凌ぎ、沈もうとすれば黄泉に伏す。など。

それほど神通力のある龍でも勢いを失えばただのもの。神龍も水を失って陸居すれば蟻(ケラヤアリ)に裁せられると楚辞の中に記されています。易経の乾为天をかいまみる想いがあり、最盛期から滑り落ちていく落魄の運勢のようですね。まさしく吉凶はあざなえる縄の如しです。乾卦にある竜姿は六竜あり、潜竜、見竜、飛竜、亢竜、そして用九に群竜

が存しています。どんなふうな竜なのか眺めていただきたいもの、易経の冠位を得ているところの乾卦ではないでしょうか。ここで快い語録を取り上げてみますと、

竜睛一竜眼で良相

竜眼一天子の顔

竜姿など天子のこと

日本の諺に曰く、柄にもなく大きな望みを持つことを「竜の鬚を蟻がねらう」

『史記』に孔子が周の都に遊学しているときに老子に面会、老子の偉さに感心して、竜においては吾其の能く風雲に乗じて天に上がるを知る能わず、吾今日老子を見るに、其猶竜の如きか。

孔子の嘆息といわれるところの史記の論です。さて龍にはいろいろな名がありますが、竜体の種類であったり、どの位の年数と年功などで名付けている節があるように思います。『博雅』によると「蛟龍一鱗あるをいう



応龍一翼あること
蛟龍一角あるをいう
蛟龍一角なきをいう
『述異記』では
蛟は千年経て化すと龍となり、その龍が五百年経て化すと角龍、千年を過ぎて応龍となるが、年を経た龍が黄色になると黄龍で神の精などといわれ四龍の長になります。まだまだ種本からあるのは次のようです。

三国志の諸葛孔明は久しく野に隠れていたので臥龍(ガリヨウ)なりと。それなら画龍点睛、そして酔龍があり。

登竜門となれば厳しいが爽やかな龍門でしょう。ここまでは書いて、竜がますます霊獣として表れてくるようです。

『竜は変幻自在な霊力を有する瑞兆の動物』として尊ばれ、絵画や鏡など竜文の図柄に残されています。我が国の弥生時代以後の遺跡から出土した鏡が物語っています。また古墳の壁画に、四神の相として東方に青竜が描かれているわけです。竜だけでなく馬の姿となつている竜馬があり、なぜ馬が描かれたのは、前漢時代の説話によると

水中に棲む竜の子種が牝馬につくと、駿馬とか天馬とよばれる名馬が生まれるという説話から来たものです。

器物に描かれ知られてゐるのは、四瑞（四靈）があり、竜、鳳、麟、亀ですが、四神に近似する条件になっています。

さて雑書を尋ねてみますと、なかなか味のある格言がありますね。

龍珠し頤に隠しもつ玉
龍星一四月東に出る星
龍顔一天子、史記高祖
龍文史一史記をいう。

龍足一銭の異名
龍子一蜥蜴の異名、古の良馬の名、辰の子など
龍生日一陰曆五月十三日の異称。

龍行虎歩一天子の風采立ち振る舞い。
竜頭蛇尾一始めよく終わりが悪い。

虎口を逃れ龍穴に入る。
天水樋の龍
龍の鬚を撫で虎の尾を踏む。

灰吹きから龍が上がる。龍車に向から蟻螂の斧。龍と心得た蛙の子。など数多くの諺に酔いしれその涉獵の記とします。

福田 有宵

新年にあたって

有峰会長
牧野有峰



明けましておめでとう
ございます。

皆さまには希望に満ちた初春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと未曾有の大地震が発生し東日本一帯を襲った年でした。

東京電力福島第一原子力発電所はいまだに事故を完全に収束できず全国各地で避難生活が続いている現状です。

今年もさまざまな課題が山積みされており一向に景気は改善されず、一段と不景気に拍車がかかってます。

さて、今年には辰、竜（タツ）龍（リュウ）とも云います。この龍は十支の中でも唯一、空想の動物で昇龍、聖龍とも呼ばれ、早魃時には雨雲を引き寄せて雨を降らせたり、時には天空高く舞い昇り人々の苦難を取り除き幸いをもたらすとされて

れています。

有宵会の皆様におかれましては、この龍にあやかり幸せ、元氣、希望、健康な年になります様にお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

牧野 有峰

九星と易断による

一月・三月の運勢

気学では寅二月

二月四日（立春）節入り
破

九星易断表 (寅月)

天	道	破
4	9	2
3	5	7
8	1	6
生	気	

気学では卯三月

三月五日（啓蟄）節入り
破

九星易断表 (卯月)

天	道	破
3	8	1
2	4	6
7	9	5
生	気	



一 白水星の人の運勢

二月筮一山雷頤の六二
三月筮一艮為山の九

二月は自重運で待ちの姿勢、新規事は時期尚早

家族の会話不足と節約金交際は表立たず誤解用心互いに支えてわかる愛を健康は冷え寒さの風邪と足腰、両便は規則的食事

三月は雑用多く確実処理、中旬急ぎ失敗安全に。仕事は条件とルール守る。親子仲良く意見相談聞く

絆は強し。金銭面は警戒健康は疲労感、皮膚症、肩と膝、めまい血圧用心。

二 黒土星の人の運勢

二月筮一地火明夷の六四
三月筮一水沢節の六四

二月は現状維持で生活無難に公私に背伸ばさず本業に責任あり家庭に中旬に意見対立、交際は相手のペース気味慎重に。

婦人に愛を告げる贈物を。健康は消化疲れ、動悸と血行、視力と神経疲労。

三月は予定の処理、新方針に飛びつかずわが家に重点を置く。住居と家計支出増、交際は音楽や運動に楽しさあり。早春の外出で異性愛に時めく。

口腔、皮膚、鼻炎に対処。

三 碧木星の人の運勢

二月筮一水火既済の初九
三月筮一兌為沢の六三

二月は公私共に準備を忘れずどこでも礼儀第一に。友情はサツパリと気持ち

持ちを繋ぎ異性間は良好。子孫の支出と月末欲張らず平凡に。業務は目配り深く安心。健康は気管支ストレスと熟睡で回復を

三月は良くも悪くも注意意運で強行策は避ける。軽率な約束や金銭投資は不利益生ず。仕事は実績上げる協力者や家族が頼り。健康は風邪、感染、腸、股間、血圧に用心。

四 緑木星の人の運勢

二月筮一乾为天の九四
三月筮一山沢損の九二

二月は身辺忙しく気力が充実、人物評価良く仕事が生きる。縁故知人と再会の喜びや好情報で目標に近づく。電子と通信関係は有益、恋愛面や良縁など吟味。体調順調

疲労と頭痛、胸間部注目。三月は心に裕りを持ち人に奉仕と協力で福を呼ぶ。家庭は婦唱夫随に望外の喜び、その他の好機に早く乗る。交際と買

物出費。体調変化と持病対策、胃腸と便通に留意。

五 黄土星の人の運勢

二月筮一地沢臨の六四
三月筮一水沢節の初九

二月は気張りすぎずゆくり進める。上旬の勢いに乗れば手心えあり。仕事量多く私用後回しで不満含み。出資や仏事に筋目を貫ぬくが対人面は下旬に和。健康は体力消耗、関節、のどせき予防

三月は社交性発揮して人脈拡大を図る。仕事は自信で押すが舌禍に注意。家族の言葉足らずと蓄財方針が大切。計画の実現はまだ不十分。体調は循環器、頭部、目歯に注目。

六 金星の人の運勢

二月筮一火水未済の六三
三月筮一水火既済の六二

二月は予定の門を開くのが良い。公私に些細な問題をせんさくしないで心広く。厄介な仕事は不成就、親子や夫婦に角が立つが辛抱は総ての門開く。体調は疲労とストレス、過食と運動不足対策

三月は慎重運、油断やミスから明暗が分かれる。仕事は新芽が出て楽しむ。旧交を温め花が咲く。予

定日時の確認を忘れずに記録。体調は肩こりと歯と舌、のどと痰咳の処置。

七赤金星の人の運勢

二月筮一火雷噬嗑の九四
三月筮一水沢節の六三

二月は平穩に過ごし一息つく。頑張るより気楽に頭を下げ平和ムード、目上を立て目下の相談に乗り交際は手際良く。金運は小利にこだわると不利益。体調は歯の手当て、胃炎、筋肉痛、聴覚など。

三月は平凡に見えても外部から問題起きる。話せばわかるが対話不足、金銭の置き忘れやトブルに注意。諸事に助言は吉、転業職は回避。体調は風邪、足腰、下痢整調。

八白土星の人の運勢

二月筮一風沢中孚の初九
三月筮一地風升の九二

順調なりズムで安閑、無理押しをしないで好機待つ。周囲との協調に努める。仕事は指導力発揮交際はほとぼりをさますなど状況判断を。良縁が近い。体調は関節と筋痛、頭重、気の重さ対処。三月は新機方針に切り替える。近い将来のため案を練る。日常生活は用

事多く気配りで疲れる。申告と書類、カード類の管理能力を高める。体調は目と歯、血管血液注目。

九紫火星の人の運勢

二月筮一離為火の初九
三月筮一風水渙の初六

二月は好転の時機となり人気上昇、窮すれば通ずという。粘りで勝ちを得る。仕事は多忙ムードで気が散りやすい。頭脳は知識欲と向上心に富み上司に生かす喜び。体調は多忙の疲れ、歯と顎腰部の自制と生活の管理。三月は自重運、何事も一步譲る心構えから家庭は円満、短気は損気という。気の緩みから持物や足元に用心。古いことはむしかえぬが無難と金運控え目に。寒気は禁物で足腰を鍛える散歩と体操。

福田 有宵



十一月有宵会報告

八川林加

十一月二十六日(土)

足立区こども家庭支援センターにて、NPO法人 岳易館・有宵会が開催されました。佐藤宗眩先生の司会進行のもと、第一部は、吉田侑加先生による「第三回 宿曜占星術」、第二部は、福田有宵先生による「方位について」のご講演を頂きました。



吉田侑加先生による「宿曜占星術」のご講演では、今回も会場の皆様全員に宿曜盤を作成する為に必要な教材と資料をご提供頂きました。また今回は、福田有宵先生と佐藤宗眩先生も講演に参加され、会場の皆様と実際に手を動かしながら先生方と対話形式で宿曜占星術を勉強するという、

いつもとは趣の違った新鮮な印象のご講演でした。

各宿の求め方

万年暦を使用し、旧暦から求めていきます。調べたい人の生年月日の生まれ日の欄を万年暦で確認します。

万年暦の日盤欄は、右から日の干支、次に日の九星、曜日、六曜、一番左に旧暦が記されています。

宿曜盤を用いて調べたい人の宿の下に「命」の文字が位置するように操作します。それがその人のホロスコープとなり、対人関係や日の吉凶を判断する指針となります。例えば、相性などを見る場合は、夫が妻に尽くす側なのか、或いは妻が夫に尽くすのかについて調べたり、友達同士の間柄を調べたりするなど、対人関係を見る方法として適しています。

占例1・相性の見方

Aさん 箕宿(きしゅく) Bさん 亢宿(こうしゅく)

昭和50年3月5日生 旧暦では1月23日
昭和47年12月27日生

日 宿曜盤を利用し、Aさんの宿星の下に「命」の文字が位置するよう操作します。

宿曜占星術盤でAさんの宿星・箕宿(きしゅく)を基点として右半分の円にあたる尾宿(びしゅく)から井宿(いしゅく)までは、箕宿が尽くす側の宿星と見ます。宿曜盤の左半分の円に位置する斗宿(とうしゅく)から参宿(しんしゅく)までは、箕宿に対して尽くしてくれる側の宿星となります。Aさん(箕宿(きしゅく))からBさん(亢宿(こうしゅく))を見ると「危」(き)となり、逆にBさんからAさんを見ると「成」(せい)になりますので二人の相性は「危成」の友達星の関係と見ます。

この星は、趣味や好みは違っても相手に好感を持ち仲間として気が合う間柄です。二人の相性は、お互い親しみを感じる良き友人同士です。また、AさんからBさんに心遣いをする事が多い関係になります。結婚に関して見る場合でも「危成」の友達星の関係は決して悪

い関係ではありません。占2・日の吉凶の見方

日の吉凶を見る場合は、宿曜盤の「栄」「衰」「危」「成」「壊」などを見て、その日が自分にとってどの様な日であるのかを判断する事ができます。一番よい日は、「友」「親」「栄」の日です。反対に「壊」「危」はよい日ではありません。特に「危」の日に旅行を計画する事は避けた方がよいでしょう。

占例3・夫婦の相性の見方

夫 張宿(ちようしゅく) 妻 猪宿(ししゅく)

昭和52年6月22日生 旧暦では、5月6日
昭和54年4月27日生 旧暦では、4月2日

今回ご相談があったご夫妻は、「安壊」の関係で、妻がご主人に対して不満を持つている事からご相談に来ている状況でした。夫の宿星である張宿は、良い夫と悪い夫の面を併せ持つ意味があります。妻の宿星である猪宿は、家庭をしつかり切り盛りする良妻賢母の星です。夫から妻の猪宿を見ると

「安」となりますから、妻が尽くしてくれる側になります。一方、妻から夫の張宿を見ると「壊」になり、尽くしても心を傷つけられ夫から破壊されるという「安壊」（あんかい）の相性となります。「安壊」は27宿の中でもトランプが多い関係です。特に、宿曜盤で中距離と遠距離に位置する男女の相性はトランプが多いので、「ミニユニケーション」をとり親睦を深めるよう努めていく心掛けが必要になります。相性を見る場合は、近距離・中距離・遠距離の3つのコースから見る方法があります。「安壊」の相性は、一目合った瞬間から火花が散り、男性の方が家庭を持っていてまで妻と子どもを捨ててまでその恋を貫くという傾向があります。「安壊」の中距離・遠距離の関係は、離婚の確立が高い傾向があります。また、「安壊」の結婚は、親に反対されたり、別の理由で邪魔が入ったりという事が起こります。もし、経済的に結婚に至っても、経済的な努力、または身内の問題、或いは健康上の問題

で努力が必要になります。愛情だけでは乗り越えられない問題が与えられてきますので、どんな困難にも負けずしつかりと受け止める事が必要です。「安壊」の例では、春風亭小朝さんと泰葉さんご夫妻、勝新太郎さんと中村玉緒さんご夫妻が参考になります。芸能界のカップルには「安壊」の夫婦が多く見受けられます。「安壊」をトランプとして受け止めるだけでなく、その特殊性を生かす事が大切であると考えます。その他に、「安壊」の関係では、一度離別しても再度関わりを持つといった事もあります。

占例4・上司と部下の相性

上司 氏宿（ていしゅく）
昭和25年1月11日
旧暦では、11月23日
部下 室宿（しむしゅく）
昭和45年6月23日
旧暦では、5月20日

上司と部下の関係も宿曜で見ます。上司・氏宿

と部下・室宿の関係は上司から部下を見れば「業」、部下から上司を見れば「胎」の「業胎」になります。部下が上司に尽くす関係ですからとも理想的です。「業胎」では二本のレールの上をお互いが走っていかねればなりません。故に、車の両輪の如く共通の事項を行っていくのに適していません。同じ職場であればギブアンドテイクの良い関係になります。

質疑応答

【質問】その星その星の特徴はありますか？

【吉田先生】例えば角宿を「命」として観る場合を例題にしてみますと、すぐ隣の左側の「榮」の位置に亢宿（こうしゅく）、右側の「親」の位置に軫宿（しんしゅく）があります。これが「榮親」で夫婦星になります。「命」に最も近い所に位置しています。「榮親」は宿曜盤の中に三つずつ配置されていますから、この他に中間に位置する所、遠い位置にする所と三力所に配置されています。それぞれを組み合わせを見て判断をして行くのです。

【佐藤先生】宿曜盤で

は、27宿の内、「命」「業」「胎」は一つずつ配置され、その他に八種類の星が三つずつ配置されています。自分の星に「命」を置き、相手の人がどの星に配置されるかの組み合わせで自分にとつてどのような相性であるかを見ます。また、相手の星に「命」を合わせた時に自分の星がどの位置に配置されるかで相手から見た相性もわかるようになっていきます。

【福田有宵先生】宿曜占星術を勉強してみますと実に不思議な縁の組み合わせがわかります。本日は、吉田侑加先生の助け星にあたる佐藤宗暎先生が講演に参加して下さいましたからこれも宿曜の縁があると思えてよいと思います。また、日蓮宗や法華宗では日取りの吉凶を28宿の暦で判断しています。宿曜とは「スクヨウ」と呼ばれる場合があります。これは、真言宗のお経からきているものなのです。仏教の専門誌に「大宝輪」があります。二〇一一年八月号には宿曜経について書かれています。その中で、宿曜経は密教からき

ているもので、正式の名称を『文殊菩薩及諸仙（もんじゅぼさつぎゅうしよせん）所説（しよせつ）吉凶（きつぎょう）時日善悪宿曜（じじつぜんじつぜんしゅく）経（きょう）』であるといわれています。大変長い名前ですが、覚えておかれるとよろしいでしょう。

第一部「方位について」福田有宵先生

方位とは源氏物語の時代から伝えられており、当時は、方違えという意味で使われていました。今でもプロの方はその方法をご指導される場合がありますが、元は道教の教えから始まり陰陽道が開かれた訳です。その基準となる暦を見て吉凶を決めていたのです。現在は、九星気学の分野で盛んに用いられています。非常に解り易く、自分が動く事で吉凶が出る訳です。つまり、方位は開運



法なのです。開運のためにはどのような努力をすればよいかを考えます。「動より吉凶を生ず」と覚えてください。気学は、一に開運の方法であること、二にその答えを計算に入れる事ができるものなのです。九星気学の方位は、古くは奇門遁甲という占法からきており、天盤と地盤から成り立っています。九星盤の方は地盤と呼ばれています。天盤は、古くは方鑑と呼ばれ、十干を入れた24方位で成り立っています。地盤を合わせる時も24方位に合わせて見て行きます。四正（東西南北）は30度、四隅（東南・西北・北東・西南）は60度になっています。これは、気学の園田真次郎先生が定めた画期的なものです。気学の流儀はいくつかに分かれて来ましたが、園田真次郎先生の流儀と関西の田中胎東先生の流儀が知られています。理論から実践する事で変化をしてきたのです。本日は、「平成二十四年度開運吉方」の資料を用意しましたので是非活用して頂きたいと思えます。この資料は通

常とは違い夜の時間帯の吉方まで記載しています。次に利用方法ですが、まず年盤から方位を選びます。次に月盤と日盤を合わせます。そして、時盤（刻盤）の三盤を合わせることが最も望ましい方法になります。例えば、ちよつと買い物に行くといった時には、日盤と時間盤を合わせます。その際に月盤の方位が悪くても日盤と時盤の方位を使うという応用の仕方があります。日常生活の用事については、日盤と時盤で見てよいのです。その代わり、時間をかけて用事をする場合、例えば何泊かする旅行や何日も滞在するといった用事の場合は、月盤を入れる必要があります。どれ位の時間を要するかが重要です。では、年盤と日盤の関係はどうかと言いますと、日盤は一年の1/365の確率です。例えば平成二十三年は西の方位が暗剣殺ですが、日常生活の日の用事である場合は年の方位が暗剣殺であつても差し支えないのです。しかし、月盤を使うほどの用事になると方災になります。

このように必要な時間の単位で判断の材料にする必要があります。例題として一白水星の方は、平成二十四年の二月は四日、十三日、二十二日に東が吉方です。時盤では、午前一時から三時、午前七時から九時、午前九時から十一時、午後七時から九時が東の吉方になります。従来、夜の時間帯まで入れるケースはありませんでした。今から夜の時間帯を考慮しましたのは、その時間帯に打ち手があるかという事を皆さんに感じて頂きたいと思つたからです。夜はどの様に使う手があるでしょうか。日中の場合でも陰陽の時間に分かれま

す。陽の時間帯は寅の刻から申の刻まで、申の刻から朝方の一部までが陰の時間になります。また、陽遁と陰遁に分ける方法もありです。陰遁は六月もしくは七月頃から始まり、陰遁という説で昼間の時間帯に吉方位を取り、お水取りをする。そこに問題があるだろうか、ないだろうかと考えます。陽の方と陰の方をそれぞれ用いている訳です。夜中の時間帯は陰の時間帯であり、昼間の時間帯は陽の時間帯です。一般的には、昼間の時間帯に出かけてお参りをし、お水取りをしている訳ですが、夜の時間帯にしか出来ない事もあるのです。例えば願ひ事を持つような場合、夜の時間帯をどのように活用していくか。何故今まで気が付かなかつたのだろうか。皆様も研究課題にして頂きたいと思ひます。何のために方位を取るのか。それには必ず目的があるのですが、目に見える性質のもの、目に見えない性質のものがあります。見えないものに対してはなかなか受け入れられませんが、目に見えるものとしては、お水取りやお砂取り、木取りや金を取るといった五行で存在するものを得る事が目的になつてくるのです。木火土金水の五行説に陰陽説を入れて分析を試みますと、土と水は生活上最も必要なものです。命の泉と言ひますが、お水取りをするという事は体が丈夫になり健康になる訳です。このような事で水取りの存在は何かといひますと、食

べる物であつたり、生かされる様々な材料を生み出したる訳です。土は体に必要な要素で主に食糧の部類や季節を表します。また、吉方位を取る方法として方位転居（吉方転居）の法があります。二ヶ月程（60日説、少なくとも45日以上）吉方に転居してまた戻るといふ秘術です。最も効果的な方法が転居の法です。時間が長い程よいのです。人生の中で運命を変えたいという大きな願ひの場合は転居をして定着し、次の最大吉方でまた転居する方法が有効です。しかし、これには矛盾が含まれていま

す。一つは、吉方で運を掴む必要がある一方で、生活の場や仕事を失つた場合は運を中断させてしまふのです。その場に定着する事は運を支えることになりません。従つて時間が十分にある場合はともかく、第一線で活躍している方が頻りに転居をする訳にはいきません。転居の法が出来ない場合は、短期間でやるしかないのです。次に、吉方取りの順番ですが、本命星と月命星の両方から最大

吉星を出す事が最も理にかなつています。例えば、本命星が二黒土星で月命星が六白金星の場合、最大吉星は八白土星又は七赤金星になります。しかし、比重の問題が出てきます。本命星よりも月命星の方に比重がかかる最大吉星があります。月命星が主になる最大吉星の場合は、その人にとって非常に大切です。定説としては、木火土金水の生氣と退氣から出す方法もあります。どちらの方法が適切であるかは検討する必要があります。ほとんどが相生か比和を使ひますが、時には危険を冒して相剋を使う場合もあります。方災は、六大凶殺（五黄殺・暗剣殺・歳破・月破・本命殺・本命的殺）が一般的です。八大凶殺で見ると場合は月命殺・月命的殺がプラスされませんが、大抵の場合は六大凶殺までを考慮します。本命星・月命星で最大吉星を出す場合は、月命星の存在を高くしていただきます。本命星だけで判断する場合は月命殺・月命的殺を省略していただきます。それぞれの流派によつて違いがありますが、月命

殺までを考慮する七大凶相殺説までを主流とみま



質疑応答

【質問】北東の方位には転居を勧めていないのですが、もし運勢の悪い方

殺までを考慮する七大凶相殺説までを主流とみま。次に古くから定位盤の中で北東の方位（艮宮）は変化があるので転居をしてはいけない、方位を取らない方がよいと言われております。その他にも南の方位（離宮）は、離れの作用があるために避けられております。戦前流の気学を用いている方にその傾向が見受けられます。六大凶殺である場合は、北東、南に限らず方災が強く出ますが、その人にとって吉星であれば北東、南においても大変有意義であるという捉え方が必要です。しかしながらどのようになつていくかを考慮する必要があります。

が変化をする為である場合は、5年程度ならその方位に転居してよいと聞いたのですがどうでしょうか。

【答】定位の北東と南だけは古くから色々説があり、定着をせずに一定期間で離れるという考え方があります。気学は動くことよって運を転換させる事が出来る訳ですから、北東へ転居する場合は、どのような理由で移ったかが重要になります。例えば、若い世代が北東をとった場合、五年位でその人の運が変わっていく事から、運気の変わり目の五年後に再度移るという説ができたのです。誰もが同じという事ではなく、それぞれで運気が変わる時期があるのです。それは、一、四、七、十の年数でみて五年と見ているのです。また、八白土星の所は五行の数が五と十、十五、二十なので、故に五年、十年は大丈夫でしょうという答を出す事ができるのです。

けですが、関西の方では数え19歳まで(九星の二回り分)は月命で判断する説が根強いです。関東の方では初めから本命星での判断が主流です。

【質問】今年三月十一日が大震災が起きました。十二月は再び年盤と月盤に七赤金星が中宮する月になります。三月と異なる点は月破の位置だけで暗剣殺の位置も全く同じです。気象庁では、十二月十一日に12%の確率で大きな地震の可能性があると報じておりましたが、福田先生のご見解は如何でしょうか。

【答】地震は五黄土星と八白土星の作用で地震ありと見ます。その他に三碧木星も地震の象意があります。今年の場合七赤金星ですが何故このよう配置で大地震が起きたかを見る場合は、年月の盤が揃う条件があった事、また一白に三碧が同会した所から海底型と見ます。その他、五黄と八白を見た時に東西のラインから地上に現れると見る事もできます。気学で判断する場合は他の要素での見解を入れるべきではありませんが、あえて易を立てますと「雷天大壮」の九三です。外卦に三碧があり内卦に六白が配置されていますので、動きありと見て軽い地震はあるでしょう。ただ、三月のような大規模な地震は起きないでしょう。

震は起きないでしょう。本日の福田有宵先生の方位のご講義は、専門書では決して触れられる事のない秘伝に特化したご講義でした。今回も貴重なご講演を頂きました。ありがとうございました。

『お大師様』のみもとの鑑定会

濱野 延珠



新年明けましておめでとうございます。皆様方には、新しい年をどのようにな、お迎えたのでしょうか。昨年三月十一日に発生した東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。有宵会の伊藤常任理事から、岩槻大師さま寺内で鑑定の出演がありました。元旦から三日までとのこと、私は二日にお願いをいたしました。岩槻大師さまは、彌勒

密寺といい関東三十六不動霊場の三十一番札所です。お正月の賑わいで護摩札を求める檀信徒で、参道は車で渋滞、境内と寺務所には、護摩札を求められる大勢の方で一杯でした。

新春大護は、まず不動明王さまにお願い事の成就をご祈願します。護摩供とは炉に火を起し、その中にお供物の護摩木・五穀米などを投じて煩惱を焼き尽くします。元旦より七日まで厳修され、ご本尊の喜多向(北向き)不動明王さまに手を合わせ、御護摩の火に願いを込め、邪気払いを受けることが出来ます。私もお不動様の御加護を頂き、お護摩札に、『家内安全』祈願のお札をいただいで参りました。昨年に続き今回で二回目の鑑定です。鑑定する部屋は忍辱の間(御仏さまの広い心を以てすべに、耐え抜いてゆく)の部屋に通されました。部屋は暖房で温めてあり、ふつくらとした座布団が敷かれ、占いの準備が整っております。

大護の邪気払い後、四組の相談者がお見えになりました。その一組のご夫婦の内容を、ご紹介させていただきます。

昭和四十六年「辛亥」十一月五日生、本命二黒月命三碧の方で、ご主人本人の相談でした。気学から過去を推理しますと、平成二十二年(庚寅)本命二黒は良宮に同会し暗剣殺付です。良宮のため移動の傾向があり他動的凶意があります。月命三碧は離宮同会し実力を発揮するも、二黒の被同会は五黄に歳破付のため、不摂生から病気などが生じ、トラブルが次々と続き挫折したと思われま。二十二年は、とても厳しい年で、不安定な状態になりましたが、とお聞きしました。答えは辛くて大変な職場でしたとのこと。しかし頑張つて、一年前の平成二十一年、上司に認められ、役職に就くことが出来ましたが、二十二年の人事異動で、人間関係で悩み続けて、精神的苦痛を生じ会社を辞め、それから神経内科に通つてい

ました。今は、他の会社に就職しましたが落ち着かず不安で辞めようかと迷っています。このようなご相談です。

私は不況の中、正社員として採用され給与も前の会社より悪くないとのこと、今までの並々ならぬ努力の結果が評価されていると察しました。

今の会社で、今日出来ることをして、出来なければ明日があります。

現在は働きたくとも仕事がない時代、現実を受け入れて今の職場で、自分自身を調節し我慢する事を学ぶ時です。今年(二十四年)の運勢となる事を申し上げます。小を積んで大を成すように晩年の星です。焦らず一歩一歩進め仕上げてください。

とお話しているうちに、相談者の顔色が急に明るくなったのを感じました。納得いただいたようです。今日一日、岩槻大師さまの御守護の御許で、鑑定による奉仕をさせていただきます。深く感謝申し上げます。

ご住職さまお寺の皆さまのお心遣いを身にしみ

て有難く思いました。ご本尊さま、お不動さま、本当に有難うございました。

雪見

合掌



雪国の人には苦勞の種ですが、雪は豊穰を知らせる吉兆として喜ばれておりました。今年のように多いと如何なものかとは思いますが、雪は『雪月花』と称えて、春の花、秋の月と同様に、人々は雪の美しさを愛でて来ました。

江戸時代には『雪見』が庶民の行楽となり、神田明神や湯島天神、愛宕山など見晴らしの良い雪見の名所に繰り出しました。

『六花』や『雪華』は、雪を花に例えた別称で、その他にも粉雪、綿雪、牡丹雪、風花、細雪、淡雪など情緒豊かに呼び分けています。『万葉集』

には、144首もの雪の和歌が採られています。

また、世界で初めて人工的に雪の結晶を作り出した科学者、中谷吉郎は『雪は天から送られた手紙である』という詩情あふれる言葉を残しました。

NPO通信

NPO法人として左記のイベントに参加しました。(以下敬称略)

品川プリンスホテルの新春占い会

二十三年十二月三十一日

横小路細華・武田悠李

二十四年一月一日 濱野

延珠・半田晴詠・久保田

恵都予

一月二日 佐藤宗眩・

松本彩里・三枝白繪

岩槻大師様出演

二十四年一月一日

佐藤 宗眩

二日 濱野延珠

三日 松本彩里

3日間合計で三万四千円の鑑定料を、有宵会としてお大師様に奉納致しました。

大阪大丸デパート心齋橋店にて「占い小町」

の名称でフェスティバルが開催され、有宵会から四名の方が参加しました。二十四年一月三日

大川法祥・佐藤宗眩

四日 佐藤宗眩

五日 大川法祥・佐藤宗眩

六日 池田垂弥

七日 池田垂弥

八日 池田垂弥

佐藤宗眩・池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

池田垂弥

無料鑑定会のお知らせ

昨年同様三月十日(土)無料鑑定会を行います。ボランティアを募集しております。事務局の方にお申込み下さいませ。



事務局だより
新年明けましておめでとうございます。

次回の例会
日時 三月三十一日(土)午後一時十五分より
場所 「足立区こども家庭支援センター」にて
福田先生講演「ズバリ病気は手でわかる 大熊茅楊著」

行事予定

・長谷山本土寺へ「初参り」
期日 二月十六日(木)
集合JR北小金駅改札口 午前十時

会費 六千円(祈禱料三千円・昼食代三千円)

「NPO無料鑑定会」
期日 三月十日(土)

午前十時～十六時
場所 松戸市矢切「まつど市民活動サポーターセンター」

四月にバスで巡る「江戸の五色不動尊巡り」を企画しています。詳細は後日お知らせします。万障お繰り合わせの上ご参加下さい。

平成二十四年は壬辰年です。陽気が盛ん、万物が震い起こる時。勢いのある一年であって欲しいもの。龍頭蛇尾に終わることのないよう頑張りましょう。

本年もよろしくお願い致します。

昨年十一月の有宵会例会には 六十一名の方が参加されました。

三月の有宵会は 第五週になります。ご注意下さい。

伊藤 璃香

